

再々評価審議対象事業一覧表(1 事業)

(別表1)

事業種別	事業名	事業内容及び事業コスト	市民のニーズ	採択年度		事業が長期間要している理由	事業効果の発現状況		自然環境等への影響と対策	途中段階の整備効果発現状況		市の評価	評価
				進捗率(H27.3)			定量的評価	定性的評価		事業の置かれている状況(現状での課題)	完成目標年度		
街路事業	都市計画道路諏訪森神野線	延長：1.05km 道路幅員：18m 道路区分：第4種第2級 全体事業費 約78億円 (内訳) 用地費 約45億円 工事費 約33億円	○歩行者と車の分離や生活道路への通過交通の抑制による安全性の確保 ○JR阪和線を横断する交通の円滑化 ○災害時における指定避難所等への避難路形成による防災性の向上 ○沿道土地(休耕地等)における有効活用	平成12年		用地買収及びJR立体交差工事で遅れが生じたため	○費用便益比 B/C=0.72(事業全体) (現在価値換算後) 総便益 B=72億円 [走行時間短縮便益] [走行経費減少便益] [交通事故減少便益] 総費用 C=100億円 B/C=2.73(残事業) (現在価値換算後) 残事業便益 B=55億円 残事業費用 C=20億円 ・費用便益算定の根拠「費用便益分析マニュアル(H20.11)」 国土交通省 道路局 都市・地域整備局 ○渋滞損失時間の削減 195千人・時/年	○安全性の確保 ・歩行者と車の分離による安全性の確保 ・周辺の生活道路への通過交通の抑制による歩行者の安全性確保 ○交通の円滑化 ・JR交差部における交互通行の解消により、車両交通の円滑化 ・路線バスの経路が、本道路へ切り替わることにより、バス運行の円滑化 ○防災性の向上 ・災害時には、延焼遮断帯として火災延焼を防ぎ、被害を軽減 ・周辺の広域緊急交通路の代替路線としての役割 ・指定避難所等への避難路形成 ・周辺に立地している医療施設(堺市立総合医療センター等)への救急救命交通のアクセス路としての役割 ○地域活力の向上 ・沿道土地(休耕地等)の有効活用 ・地域間交流連携の向上	旅行速度等の向上に伴い、自動車からの排出ガスが削減 ・CO2排出削減量 243 t/年 ・NOx排出削減量 0.8 t/年 ・SPM排出削減量 47kg/年 ※H22年度における原単位にて算出	市道上野芝宮下1号線からJR阪和線までの範囲を供用することにより、交通の円滑化及び安全性、防災性の向上に効果が得られた。	継続	継続 見直し 中止	
				○事業進捗率 73% (執行額ベース) ・用地 96% (面積ベース) ・工事 47% (供用延長ベース)						特になし	平成30年度		